

第3回（平成19年度）陸上掘削部会・執行部会 議事次第（案）

日時：2008年2月26日（火）14：00～17：30

場所：JAMSTEC 東京事務所 セミナー室 A・B

出席者（敬称略）

執行部：浦辺徹郎（東京大学）井龍康文（東北大学）小村健太郎（防災科学技術研究所）
佐藤比呂志（東京大学地震研究所）藤井直之（静岡大学）宮石 修（日鉱探開株式会社）

事務局：中山敦志 加賀谷一茶 梅津慶太 吉岡由紀

オブザーバー：佐野 修（東京大学地震研究所）林 為人（海洋研究開発機構）

欠席者（敬称略）

執行部：池田隆司（北海道大学）木村克己（産業技術総合研究所）角井朝昭（産業技術総合研究所）
徐 垣（海洋研究開発機構）中田節也（東京大学地震研究所）
林歳彦（石油天然ガス・金属鉱物資源機構）福井勝則（東京大学）山田隆二（防災科学技術研究所）
田中秀実（東京大学）

議事次第

1. 前回(#2_070706)議事録承認 [事務局] [資料 3-1]
2. 新執行体制について [資料 3-2]
3. サイエンスプラン増刷について
4. 賛助会員機関_陸上掘削部会としての対応
5. 日独交流_若手研究者派遣について [資料 3-3]
6. J-DESC コアスクールなどでの共同活動 [資料 3-4]
7. 日本地球惑星科学連合での J-DESC 情報交換会 [資料 3-5]
8. 総会関連
 - ・今年度活動報告
 - ・来年度活動予定
 - ・来年度予算案 [資料 3-6]
 - ・議事次第(案) [資料 3-6(2)]
9. その他
 - ・ICDP 和訳パンフレット「未知を掘る」発行について [資料 3-7]
 - ・J-DESC Newsletter Vol.2 [資料 3-8]
 - ・J-DESC 会員機関リスト [資料 3-9]
 - ・J-DESC ホームページ リニューアル案 [資料 3-10]
 - ・その他報告事項
 - ・次回執行部会開催日程確認

配布資料

- 資料 3-1 前回[#2_070706]議事録（案）
- 資料 3-2 新執行体制について
- 資料 3-3 日独交流_若手研究者派遣について
- 資料 3-4 J-DESC コアスクール
- 資料 3-5 日本地球惑星科学連合での J-DESC 情報交換会
- 資料 3-6 来年度予算案
- 資料 3-6(2) 2008 年度定例会員総会 議事次第（案）
- 資料 3-7 ICDP 和訳パンフレット「地球の未知を掘る」
- 資料 3-8 J-DESC ニュースレター Vol.2 校正刷り
- 資料 3-9 J-DESC 会員機関リスト
- 資料 3-10 J-DESC ホームページ リニューアル案

参考資料 1 AESTO * J-DESC Schedule

参考資料 2 陸上部会活動報告（IODP-陸上合同執行部会資料）

平成19年度第3回陸上掘削部会執行部会議事録（案）

はじめに事務局より資料の確認がなされた。

1. 前回議事録承認

会議終了まで特に修正箇所は無く、承認された。

2. 新執行体制について

資料 3-2 に基づき、浦辺部会長より説明がなされたあと、執行部委員の自己紹介がなされた。

- ・ 新執行部委員として田中秀実氏、佐野 修氏、林 為人氏が承認された
- ・ 4/6(日)の総会に向けて新委員と退任する委員の決定を行う
- ・ 来年度部会長を交代する予定である
- ・ 福井委員は退任
- ・ 徐委員の退任の意向を確認する

3. サイエンスプラン増刷について

標記の件について事務局より説明がなされた。

- ・ サイエンスプランについてストックが無く、このための平成 19 年度予算は 35 万円あり、Full でおおよそ 300 部増刷可能
- ・ 本件については特に異論はなく、サイエンスプランを増刷することが承認された

4. 賛助会員機関_陸上掘削部会としての対応

資料 3-9 に基づき、標記の件について事務局および浦辺部会長より説明がなされた。

- ・ 平成 19 年度、現時点で正会員は新たに 4 機関入会
- ・ 賛助会員は 1 社が新規入会、1 社が退会、1 社が退会検討中、1 社が他会社と合併に伴う解散消滅のため、退会の方向
- ・ 会員へのサービスをしっかりやりたいというのが IODP 部会の意向。そのためのアイデアもいくつか出ている
- ・ 日本原子力開発機構東濃地科学センターは正会員ではなく賛助会員に入っているのは、前身の機関よりも前の時代に入会したためという経緯がある可能性がある。これについては正会員に入会形態を変更した旨を事務局より報告する。
- ・ 石油会社に賛助会員のお誘いをかけると、帝国石油はどうなのかと聞かれるため、帝石にはじめに入会してもらおうつもりである
- ・ 現賛助会員にはコンサルタント系が少ない。応用地質、ドリコ、ダイヤコンサルタントなど

5. 日独交流_若手研究者派遣について

資料 3-3 に基づき、浦辺部会長および事務局より説明がなされた

- ・ ドイツとの人材交流について、合意がなされ、具体的な計画を立てるところである
- ・ はじめはコアスクールにドイツから参加してもらおうという話があったが IODP 部会では、それを越えた交流を望んでいる

- どのようなテーマを持ってどこに行けばよいか分かりにくい面がある
- 1ヶ月で若手が結果を出すということになると、サンプルを持っていき、分析を行って帰ってくるのが精一杯ではないか
- 旅費・滞在費については具体的な議論を始める必要がある
- ブレーメンと高知にはほぼ同じ分析機器が揃っているため、ドイツの人は日本にきても意味がない
- 学者間で共同研究を行うようなプログラムにして、2~3ヶ月行ってもらった方がよい。1ヶ月では短すぎる。
- ドイツと日本はサポート体制が異なっているため、分析だけに行くことや来てもらうことは問題が起こる。ドイツから日本に来る場合には特によく考える必要がある
- J-DESC では費用を負担しないが、やるという意思の決定や交流のしくみの確立が求められている
- 執行部会として、こちらからこのような人を送りたいという意思表示を行うため、会議終了後メールにて意見を募集する

6. J-DESC コアスクールなどでの共同活動

資料 3-4 に基づき、浦辺部会長より説明がなされた。

- 今年度からコアスクールとして数コース開催している
- J-DESC 会員機関からの学部生・院生参加者には数千円程度の旅費を援助している
- 孔内計測コースは次回の孔内計測ワーキンググループで話し合われる予定
- 陸上掘削コアの研究に使うツールについてのスクールがあればよい

7. 日本地球惑星科学連合での J-DESC 情報交換会

資料 3-5 に基づき、浦辺部会長より説明がなされた。

- IODP 部会より、連合大会の時に J-DESC の予算より 20~25 万円程度出費し、200 名程度の規模で懇親会を地球掘削科学セッションが終了した後に開催したいとの提案があった
- これまで陸上掘削部会では情報交換会として、学会発表にはならないが何か話題を提供してもらうということを 2 時間程度夜間小集会でやっていた
- AGU で行っている IODP のタウンホールミーティングのような形で開催し、プレゼンテーションの時間と歓談の時間を区切って開催することを提案する
- その際、お酒を飲みながらやるのであれば、プレゼンテーションは聞かないと予想されるため、プレゼンテーション時にお酒を出すのは避けたい
- 前半と後半に分けて、前半 1 時間は講演を聞く時間、後半は飲食をする時間として配分する
- 会場にもよるが前半、講演を聞く時間には、いすを用意し、飲みながら聞いても良い。後半はいすを撤去し、立食の懇親会とする
- 講演については、陸上部会としては 15 分ずつ 2 人。これから掘削に向けて進んでいる研究者。候補は小泉氏や武村氏（琵琶湖掘削）などが挙げられる
- IODP 部会からも 2 件くらいの学会発表とは別の内容（南海掘削など）の発表を求める。

8. 総会関連

浦辺部会長より標記の件について説明がなされた。

- 今年度活動報告
 - ・ 参考資料2にあるような報告を行う予定

- 来年度活動予定
 - ・ 浦辺部会長が検討し、メールにて意見を集める

- 来年度予算案
 - ・ 資料3-6に基づき、事務局より今年度予算執行状況と来年度予算案について説明がなされた
 - ・ 来年度予算の支出はおよそ11,790,000円を見越しているが、実際の執行はその7割程度になる見込みである
 - ・ 来年度は、繰越金（貯金）の取り崩しが発生する予定
 - ・ 新たな賛助会員等の勧誘を行っているため、増収がある可能性もある
 - ・ 法人化のメリットがなくなっているため、法人化検討調査費は項目の削除を提案する
 - ・ 成果公表助成（英文校閲やページチャージに対する支援）に関して、5万円程度の助成では成果が増えるとは思えない
 - ・ 成果公表助成のようなお金については、プログラムを進める上で正式にサポートされるべき費用であると考えられ、会員費から出すべきではない
 - ・ 会員費は個人へのお金ではなく、より会員機関の公益的なもの（例えばコアスクールのテキストやパンフレットの英訳など）に対して使うべき
 - ・ 成果公表助成については、IODP部会の川幡部会長と相談する

- 議事次第（案）
 - ・ 法人化検討に関する議題については残しておき、総会の時に現状を説明する
 - ・ 議事次第案は承認された

9. その他

- ICDP和訳パンフレット「未知を掘る」発行について
資料7に基づき、浦辺部会長および事務局より標記の件について説明がなされた。
 - ・ ○○掘削“計画”という表現が、過去に行われたプロジェクトに対してつけられることについて違和感があるかどうかの議論がなされたが、“計画”を省いてしまうと掘削のみ行ったように感じるため、“計画”を残すことが合意された
 - ・ 台湾チェルンブ断層は実際には2005年5月までやっている。修正する場合は、ドイツの編集担当者に尋ねて修正を行う。脚注に示すことはしない
 - ・ 何か指摘があれば、事務局にメールで連絡を行う

- J-DESC Newsletter vol. 2
資料3-10に基づき、事務局より説明がなされた。
 - ・ ニュースレター第2号は4月1日発行予定
 - ・ 日本原子力開発機構は正会員になるのであれば賛助会員リストからははずす

- J-DESC ホームページリニューアル案

資料 3-10 に基づき、事務局より説明がなされた。

- ・ 2008 年 4 月中に新ページデザインへ移行予定
- ・ コンテンツを整理し、より使いやすく見やすくするようなデザインにした
- ・ **Publication** や活動など一般向けの情報をすぐ見えるようにトップページに配置する
- ・ 陸上掘削に関するその他のさまざまな情報も掲載する

- その他報告事項

事務局より報告がなされた。

- ・ ICDP 掘削提案は、京都大の Mori 氏、東北大の井龍氏が提出した
- ・ 来年度の ICDP プロポーザルの国内締め切りを 10 月 1 日にする

次回執行部会開催日程確認

- ・ 次回は、4 月 6 日（日）の午前中、J-DESC 総会の前を開催する予定
- ・ 浦辺部会長は、午前は出席可能